

平成 24 年 10 月 22 日

所属長各位

直方市長 向野 敏昭

平成 25 年度 予算編成方針

1. 決算の状況

平成 23 年度直方市一般会計は約 4 億 2,300 万円の実質単年度収支黒字となり、2 年連続での黒字決算を達成する事ができた。

行政改革を断行し、職員一丸となって歳入確保と歳出抑制に継続して取り組み続けた結果であり、また普通交付税等の大幅な回復継続という後押しを受けたことも収支黒字化の大きな要因となった。

決算状況は好転したが、一方で歳入総額に対する自主財源の割合は約 38%にとどまっており、今後も国の方針に本市の財政状況が大きく左右される状況は続くものと見込まれる。

2. 今後の財政見通し

平成 24 年度 9 月補正時点での一般会計予算は約 4 億 3,800 万円の収支不足となっており、これは昨年度同期とほぼ同額である。

しかしながら、昨年度は市税収入が予算額に対して約 3 億 6,200 万円の改善となったのに対して、今年度は約 1 億円の改善にとどまる見通しである。

さらに、昨年度は宝くじ収益金分配金や市有地の売却による多額の臨時収入があった事を考慮すると、歳入一般財源の比較では、現時点で既に 3 億円程度の悪化を見込む必要がある。

今後も景況の悪化に伴う市税等の減収は続く見込みであり、歳入面で大幅な改善となる事は考え難い。

歳出面では、年々増加が続く扶助費や繰出金などの収支悪化要因を総人件費の削減効果で補いながら収支の改善を維持してきたが、人件費は前年度決算より増額に転じており、権限移譲・業務拡大による職員数の増員や、平成 27 年度以降の定年退職者数の増加を考慮すると、既に削減効果を望める状況にはない。

一方で、既に着手している市営住宅建設、公共施設の耐震改修事業以外にも、老朽化が著しいし尿処理場や芝原排水機場の施設

更新など早期に対応すべき課題を多数抱えている。

財政基盤確立のため、平成 24 年度実質単年度収支黒字化を目標として今日まで収支改善を最優先とした行政運営を行ってきたが、今後は中長期的な視野に立ち、先送りしてきた重要施策の実行と健全な財政状況との両立に取り組むため、今まで以上に計画的・効率的な行政運営に臨む必要がある。

3. 予算編成の基本方針

限りある経営資源を有効に活用し、第 5 次総合計画に示す施策を実現するため、行政評価制度の手法を導入している。

現在まで事業の実施状況把握を完了し、その評価段階に入っているが、今後の予算編成は従来どおりの実施計画の査定結果に加えて、これら個別の事務事業評価結果を踏まえた予算編成を行う必要がある。

平成 25 年度当初予算編成は、以下を基本方針とする。

- 歳入面の悪化が必至な情勢から、今まで以上に事業内容の精査に取り組み、一般財源の削減に努めること。
- 補助事業の積極的な活用を行い、かつ補助事業の継ぎ足し単独事業は原則発生しない事業内容とすること。
- 投資的経費や新規事業は、特段の理由が無い限り実施計画に採択されたもののみを対象とすること。
- その他事業については、事務事業評価結果を踏まえた見直しを行い、必要に応じて予算に反映すること。

事務事業評価については、それぞれの事務事業を見直す絶好の契機と捉え、次の点に留意されたい。

「改善・縮小・抜本的見直し」の評価事業については、事業のあり方そのものの再検討を、「拡大」する事業については、拡大するに必要な事業費の積み上げとその費用対効果を、「維持継続」事業では、引き続き効率性の向上を、それぞれ検討した上での予算要求を行うものとする。

以上は各特別会計においても同様の取り扱いであり、各所属長は以上の方針を十分に理解した上で予算編成に臨んでもらいたい。